

## 仙人と俗人

### 仙人と俗人

「仙」と「俗」の字を見れば理解できることだが、仙人とは山に住む人であり、俗人は谷に住む。

大辞林にも「仙人」とは「中国の神仙思想や道教の理想とする人間像であり、人間界を離れて山の中に住み、不老不死の術を修め、神通力を得た者。やまびと」、あるいは「世俗的な常識にとらわれない、無欲な人」とあった。

仙人の住んだ山は、空海が高野山を開く前の様な山奥でなければならない。決して、最澄が開いた都に近い比叡山であってはならない。洋の東西を問わず、都に近い山ではどうしても俗化が進んでしまう。「聖」と「俗」のヨーロッパでも聖人となるための修業は山上で行われる。

一方、私利私欲、煩惱の塊の俗人は飲み水や食料が楽に手に入り易い谷に、精神の安楽を犠牲にしてまでも住んでいる。

### 現代の仙人像

私には、限界集落、過疎地にこれから住まおうとする人は現在の仙人を志向する尊い方々のように見える。

自給自足を旨とし、虫やカエル、鳥類の鳴き声を楽しみ、狐狸を友とし、自然とともに生きる。農業、林業に就業するもよし、窯業、彫刻、絵画などの趣味術に没頭するもよい。時折、里に下りて、自然の恵みや芸術(趣味)作品を生活必需品に代えて、また山に籠る。

生活の糧を得るための農産物や工芸品などには上手、下手ではなく心が込んでいることが重要である。雑念を払うにはコマーシャルイズムに溢れ、押し付けがましいテレビ、新聞、インターネットを持ち込まないことである。時代遅れにならぬようする程度ならラジオがあれば十分である。

こうした生活が現在の仙人だと勝手に決めつけている。

### これからの俗人の有るべき姿

現在の俗人が好んで住むのは都会である。便利さ、暮らしやすさを求めて都会に人口が集中している。とっくの昔に先進・産業国となった今も、人口の都市化が続いている。

60歳を超え、俗人として生きるしかない悟り(諦観?)を得たのなら、何回かこのコラムで書いたように現世謳歌で消費に励んでください。贅沢しろとは言いません、この世に想いを残すことなく、文明、文化を楽しみ、家族や知人との友好関係を温め、困っている人が居られれば施しましょう。あの世に金は持って行けません。

子や孫に残したとて、一時の感謝で終わるのが落ちである。むしろ、その財産を当てにした努力を忘れるような子や孫を育てることになる。「子孫に美田を残さず」の実践である。

### アベノミクス第2弾に貢献

高齢化社会の到来で、医療を筆頭に社会保障負担が増え、税金が増え、社会保険料が増えた結果、国全体として、貯蓄率は減少している。国全体としてのGDP(消費)はそれでも増えてない。これは貯蓄を取り崩す高齢者の人口そのものに占める割合が増えた結果だが、まだまだ持ちすぎているように見える。

団塊の世代を筆頭に高齢者の消費が進めば、アベノミクス第2弾にある2020年のGDP600兆円の達成が見えてくると考えられる。